

## 大むかし、北区に住んだ人たち!

### ■ 北区の最古人!

北区で最初に生活した人は、今から約5,000年前の、縄文時代の前期末という時代に生きた人々です。

葛塚～黒山～佐々木（新発田市）を結ぶ、新砂丘I-2列上の上黒山遺跡や法花鳥屋B遺跡から、小さな土器のかけらが数点発見されています。定住していたのではなく、キャンプ地だったのかもしれませんが。

### ■ 縄文時代の<sup>とや</sup>大遺跡 ～鳥屋遺跡～



墓と考えられる楕円や円形の穴

海岸線から約6km、新砂丘I-4列上で、鳥屋集落南側の、現在、畑と水田が広がっているところに鳥屋遺跡があります。遺跡の範囲は東西約100m、南北約50mで縄文時代の遺跡としては、市内最大級です。過去に3回、発掘調査が行われ、約2,500年前の縄文時代晩期末の遺跡であることがわかりました。

楕円形や円形の墓と思われる190基の穴や、壺や鉢などの土器、石鏃（やじり）や石斧（おの）などの石器、多量のシジミなどが発見されています。石器の材料は、新発田市・阿賀野市の丘陵地帯の人々と交流して手に入れたものと思われる。



鳥屋式土器

鳥屋遺跡から出土した土器は、その地域や年代を決定する基準となる土器で「鳥屋式土器」と名付けられています。東北地方の影響を受け、「工」の文字に似た文様「工字文」や、関東・中部地方の影響を受けた、網を両側から引いてできたような浮き彫りの文様「浮線網状文」という独特の文様がつけられています。

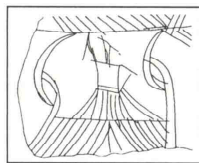
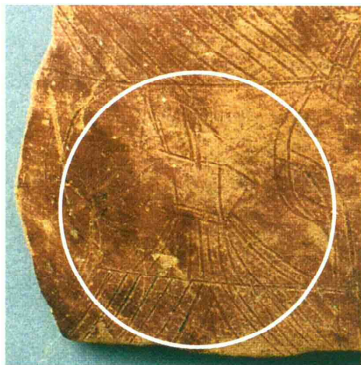
鳥屋遺跡の人々は、県内だけでなく、広い範囲の人々と交流しながら生活をしていました。

## ■ スカートををはいた人を描いた土器

しゅぬ せんごくじんぶつ がどき  
～朱塗り線刻人物画土器～

1996（平成9）年9月に行われた葛塚遺跡の発掘調査で出土しました。古墳時代前期（約1700年前）の厚く朱が塗られた壺型土器に人物が描かれています。

人物は左手を腰にあて、右手を頭上高く上げています。頭がくちばしの長い鳥のように見え、腰のベルトの下がスカ



朱塗り線刻人物画土器

ート状に広がっていることから、「裳」をまとい、鳥に仮装した巫女ではないかと考えられています。裳が土器に描かれたものとしては、日本最古の可能性があり、新潟市の指定文化財になっています。

## ■ 海浴いは塩作りが盛んだった！



出山式製塩土器（東港亀塚遺跡より出土）  
右下がコップ状土器、その他は器台

8世紀前半～10世紀後半の奈良・平安時代、食生活に欠かせない塩が北区でも作られていました。新潟東港の水路を掘ったときに発見された出山遺跡や東港亀塚遺跡からは、海水を煮つめて塩にするための専用の土器（製塩土器）が出土しました。鼓型の器台とコップ状の土器がセットで、他の地域では発見されていないタイプなので、「出山式製塩土器」と呼ばれています。

また、東港太郎代遺跡や神谷内遺跡ではバケツ形の製塩土器が発見されています。いずれも火熱を受け、もろく細かな破片となっています。



1987（昭和62）年

### MEMO

#### 考古学の先駆者 畠山佑二

1901（明治34）～1990（平成2） 北区浦ノ入生まれ。教員を務めるかたわら、北区をはじめ北蒲原を中心に遺跡調査や遺物採集活動を続け、地域の考古学研究の基礎を築きました。採集地は県教育委員会が作成した遺跡目録や遺跡地図に掲載され、埋蔵文化財の基礎資料となっています。1933（昭和8）年以来、50年以上にわたって採集した膨大な資料「畠山佑二コレクション」は豊栄博物館に寄贈されました。そのうち「市内遺跡出土品」は新潟市指定文化財になっています。